（１３）　非結球あぶらな科葉菜類（食べて菜、たかな）

※非結球あぶらな科葉菜類に含まれるチンゲンサイ、のざわな、こまつな、みずな等を除く

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*	1.苗床は無病な土を使用する。 2.前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との３年以上の輪作をする。 3.石灰窒素を施用し、土壌の酸度を６以上に矯正する。 4.圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5.発病株は根部を含めて、完全に除去する。	播種または定植前	21 21 29 36	オラクル顆粒水和剤 オラクル粉剤 フロンサイド粉剤 ネビジン粉剤
		播種前	36	ネビリュウ
2 黒腐病 *Xanthomonas campestris* pv. *campestris*	1.連作すると多発するので、アブラナ科以外の作物と最低２年輪作する。 2.発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集めて土中に埋める。 3.排水を良好にする。 4.黒腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。	初発から３～４回	M1	コサイド３０００
3 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.抵抗性品種を用いる。 2.４～５年輪作にし、イネ科、マメ科の作物を作る。 3.早播きのものは防虫ネットで被覆する。 4.軟腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。	本葉９～10枚のころから２～３回	M1	コサイド３０００
4 白さび病 *Albugo macrospora*	1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.密植したり、過繁茂にならないようにする。 3.窒素過多にならないようにする。 4.被害茎葉を集めて土中に埋める。	発病初期	11 21 21	アミスター２０フロアブル ランマンフロアブル ライメイフロアブル
5 炭疽病	1.ポリマルチや敷わらを行う。 2.排水をよくする。 3.窒素肥料の多用を避ける。 4.被害葉は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ベンレート水和剤は白斑病にも登録がある。	発病初期	1 11	ベンレート水和剤 スクレアフロアブル
6 アブラムシ類	1.周辺雑草を防除する。 2.育苗床では防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 3.周囲にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●播種時 1.モスピラン粒剤、アルバリン粒剤、スタークル粒剤を処理した場合は、つまみ菜、間引き菜を利用しない。	播種時	4A 4A 4A	モスピラン粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	1B 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4C 28 29	オルトラン水和剤 アグロスリン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 トランスフォームフロアブル ベリマークSC ウララDF
7 アザミウマ類	1.周辺雑草を防除する。 2.飛び込み軽減のため、防虫ネネット（１㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	5 6	スピノエース顆粒水和剤 アファーム乳剤
8 ハスモンヨトウ	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3.防虫ネット（４㎜目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。	若齢幼虫期	6 6	アファーム乳剤 アニキ乳剤
9 ヨトウムシ	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3.防虫ネット（４㎜目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。	若齢幼虫期	5 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	スピノエース顆粒水和剤 アファーム乳剤 トアロー水和剤CT バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF チューンアップ顆粒水和剤 サブリナフロアブル

非結球あぶらな科葉菜類（食べて菜、たかな）

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
10 アオムシ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。	発生初期	5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			11A	トアロー水和剤CT
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			28	ベリマークS C
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
11 コナガ	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（2㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●播種時 1.モスピラン粒剤を処理した場合は、つまみ菜、間引き菜を利用しない。	播種時	4A	モスピラン粒剤
		発生初期	5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナS C
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	トアロー水和剤CT
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			13	コテツフロアブル
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			22B	アクセルフロアブル
			28	プレバソンフロアブル5
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	ベリマークS C
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			UN	プレオフロアブル
12 ハイマダラノメイガ	1.秋播栽培では早播きしない。 2.育苗床では防虫ネット（2㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.8～9月の高温、乾燥時に被害が多い。	発生初期	5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
13 キスジノミハムシ	1.育苗床では防虫ネット（0.8㎜目合以下）で被覆する。 2.アブラナ科野菜の連作を避ける。 3.湛水処理によって、土壌中の幼虫や蛹を死滅させる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.フォース粒剤、アルバリン粒剤、スタークル粒剤を処理した場合は、つまみ菜、間引き菜を利用しない。	播種前	3A	フォース粒剤
		播種時	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			6	アニキ乳剤
			22B	アクセルフロアブル
			30	ブロフレアSC
14 ハモグリバエ類	1.周辺雑草を防除する。 2.飛び込み軽減のため防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カスケード乳剤はマメハモグリバエに登録がある。	発生初期	5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			15	カスケード乳剤
15 コナジラミ類	1.育苗床では防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆し、飛来を軽減する。			
16 ケラ	1.圃場を水田にするなど、湛水処理をする。	播種時	1B	ダイアジノン粒剤5
17 ネキリムシ類	1.作付け前の圃場の除草処理を徹底する。 2.育苗床は雑草の繁茂していないところに設ける。 3.圃場を水田にするなど、湛水処理をする。	播種時または定植時	1B	ダイアジノン粒剤5
		播種前	3A	フォース粒剤
18 ナメクジ類	1.除草や残さ処理などにより、 多湿で有機物の多い圃場環境を避ける。	発生初期	－	ナメクリーン3